



学習院大学 文学部

GAKUSHUIN UNIVERSITY / Faculty of Letters / Department of Education

教育学科



2050年の社会を見据えた小学校教員養成をめざして

教育学科

2050年の社会を見据え、
次代を担う資質と能力をもった
小学校教員を養成します。

教員の資質を育成

- ☑ 専門知識と指導力
- ☑ 豊かな体験
- ☑ 人間的な魅力

つながる・つなげる

- ☑ 人間と自然
- ☑ 人間と人間
- ☑ 学校と地域

● 教育学科の目標

教育学科の教育目標は、教育および社会に関する幅広い知見と教育に関する専門的な技能を獲得させ、発達の多様な可能性を探索・研究することです。次代を担う人々の成長を促進し共生社会を形成・創造するための資質・能力をもった人材を育成することをめざします。

● 2050年の社会を見据えた教員養成

2050年の日本はどのような社会になっているのでしょうか。グローバル化が進み、国際交流がますます活発になっているでしょう。バーチャル化が進み、自然との触れ合いがますます大切になっているでしょう。地域社会が多様化し、地域に根ざした教育がさらに求められているでしょう。学習院大学文学部教育学科はこのような社会の変化に対応し、次世代の子どもたちを育てる資質と能力をそなえた小学校教員を養成します。

学習院大学 文学部 教育学科の入学試験

● 公募制推薦を実施しています。

教育学科では2017年度入学者から公募制推薦をはじめました。
推薦書、調査書、志願理由書、小論文、集団面接、個人面接で総合的に判定します。

● 理系科目の勉強をしてきた方にチャンスが開かれています。

教育学科ではコアとなる試験日（コア試験日）に加えて、理学部の試験日にも受験できるプラスとなる試験日（プラス試験日）を設けているため、教育学科の受験機会が2回あります。
※同日に実施されるコア試験とプラス試験を併願することはできません。

コア試験

従来実施していた一般入試を指します。

プラス試験

他学部のコア試験日に実施する試験です。

文学部のコア試験科目

国語 外国語 地歴・公民・数学

文学部のプラス試験科目

数学 英語 理科

※文学部のプラス試験は、理学部のコア試験と同日に、理学部のコア試験と共通の試験問題により実施します。

● 2021年度入試から共通テスト利用を始めました（5教科受験型）。

〈新カリキュラム完成〉

● 開設5年目の2017年度から新しいカリキュラムに移行しました。

① 演習科目を充実させました

2年生にも少人数の演習科目を設けることで、1年生から4年生までの全ての学年で演習があり密度の濃い学習ができます。

② 理論系の科目を充実させました

「教育学理論」「教育学原典講読」など理論系の科目を新規に開講することで、理論と実践のさらなる往還を目指します。

③ 教員免許科目を充実させました

教科教育系の科目の配当年次を変更することで、よりバランスのとれたカリキュラムで学べます。



人間と自然がつながる・つなげる

体験型学習の重視

- 自然体験によるフィールド体験型授業
- モノづくりなど本物にふれる体験
- ボランティア学習による社会体験

授業紹介

1

自然体験実習

「子どもたちの豊かな自然体験は、まず教員の豊かな自然体験から!」というキャッチフレーズの下、那須(栃木県)のキャンプ場で実習を行います。2泊3日のキャンプ生活をしながら自然体験活動に取り組みます。テント設営・火の管理・竹を加工して自前の食器作成、食事作りなどの自力生活を営むことを基に、生活活動地のインフラ整備、遊具づくり、自然食材を採集しての食づくり、川遊びを通しての採集および釣り、周辺地域の散策を通しての自然観察マップづくりなど、自己課題を見付け自主的活動や作業を行い、友達と協力する大切さや自然の中での生活の厳しさや楽しさを学びます。また、満天の星空など自然観察やナイトハイクで地球環境の基盤である「自然の美しさや素晴らしさ」も体感します。これらの経験は、教員そして自分自身が親となったとき、必ず生かされるでしょう。

佐藤 陽治 教授

人間と人間がつながる・つなげる

コミュニケーション能力

- 多文化共生社会を支える双方向のコミュニケーション
- 英語のみならずアジア諸国の言語も視野に
- ますますニーズが高まる外国籍の児童への指導

授業紹介

2

初等ICT活用の理論と実践

本授業では、令和の日本型学校教育の方法及び技術を拡充するICT活用の理論と実践について学びます。タブレットなどのハンズオン機器やデジタル教科書や電子黒板での指導法、LMSによる統合型校務支援など、日々刷新される様々な情報通信技術を用いた学校教育の在り方を知ることで、個別最適な学びと協働的な学びを実現するICT活用とその評価方法を習得するのです。将来の教育者として、現在黎明期にある生成AIを始め、新しく生まれるテクノロジーの可能性と危険性を正しく理解し、変えるべきものを変える進取の勇気と、変えるべきではないものを保つ冷静さ、そして、不易と流行を見極める知性を養います。

小原 豊 教授

地域と学校がつながる・つなげる

多文化共生社会の教育

- ESD*を基盤とした環境教育・国際理解教育・ボランティア学習
- 地域社会、グローバル社会と連携した学校教育

※(ESD:Education for Sustainable Development / 持続発展教育、日本が提唱し、ユネスコが世界的に取り組み推進している持続可能な開発のための教育活動と多様性への対応。)

授業紹介

3

環境教育論

世界中で地球温暖化などの様々な環境問題が顕在化しています。私たちは子どもたちの将来のため、持続可能な地球にしていかなければなりません。このような環境問題解決方法には「法による規制」「科学技術の発展」そして「環境教育」があるとされています。しかし教育がなければ、法もできないし科学技術も発展しません。この授業では、持続可能な地球のために、そして自然と人間・人間同士が共存していく地球にいくためにどのような教育活動を行っていけばよいのかをワークショップや実習なども交えながら考えていきます。

飯沼 慶一 教授



少人数教育の魅力

本学科は、1学年50名の定員に対し、専任教員12名、助教1名、副手2名の計15名の教職員で、教育・指導に当たります。授業の際には、1学年を、半分もしくは3分の1に分けて、各教員の特徴を生かしたきめ細やかな指導を行っています。

また、1・2年生には担任と副担任が、3・4年生には担任とゼミ指導教員が、学生の相談に応じたり、進路指導を行ったりしています。

これらの少人数教育を通じて、学生間、教員・学生間の距離は近づき、将来教員になる上で必要なコミュニケーション能力が日常的に醸成されていきます。



キャリア座談会

4年生と下級生が進路について情報共有をする座談会です。例年、教育学科4年生が主体となり、企画・運営をしています。教員や一般企業、大学院進学など、多様な進路を選択した4年生が参加し、自身の経験を紹介しあいます。教育学科の学生にとって将来について見通しをもつ重要な機会となっています。



施設紹介

教育学科は、北1号館2階をメインフロアとしています。授業用教室として、模擬授業教室、多目的教室A(主に図工用)、学生向けの施設として、書庫・閲覧室、ロッカー室などがあります。同館1階には、多目的教室B(主に理科、家庭科用)や音楽室があり、授業やワークショップ等、さまざまなかたちで活用されています。





カリキュラム

分科 科目	科目系列	入門期			展開期			統合発展期		
		1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	5 年次	6 年次	7 年次	8 年次	
教育学科専門科目	I 教育のコア	・基礎演習	・教育学・教育実践演習 I ・初等教育学 ・教育学理論	・教育学・教育実践演習 II ・教育実践総合研究			・卒業論文 [12] ・教育学・教育実践演習 III			
	II 教育と現代社会		・教育の歴史と現代 ・子ども文化論 ・学級経営論	・児童発達心理学 ・学校カウンセリング論 ・生涯学習論 ・授業研究			・教師論 ・教育社会学 ・教育特別講義			
教育創造科目	I 新しい実践の創造		・日本語教育論 ・環境教育論	・ボランティア学習論 ・国際理解教育論						
	II 表現と体験		・自然体験実習	・社会体験実習						
免許関連科目	初等教育課程論	・教職概論 ・教育基礎 ・教育心理学 ・初等教育課程論	・教育制度 (教育学科) ・特別支援教育論				・初等教育実習 I [1] ・初等教育実習 II ・初等教育実習 III ・教職実践演習 (小)			
		・看護概論 [1]								
	・理科概説 ・初等理科教育法 ・社会科概説 ・初等社会科教育法	・生活科概説 ・初等生活科教育法 ・家庭科概説 ・初等家庭科教育法 ・図画工作科概説 ・初等図画工作科教育法	・初等英語科教育法 ・英語科概説							
	・初等 ICT 活用の理論と実践 ・国語科概説 ・体育科概説 ・音楽科概説 ・算数科概説	・初等国語科教育法 ・初等体育科教育法 ・初等音楽科教育法 ・初等算数科教育法	・初等総合的な学習の時間指導法							
		・初等道德教育指導法 ・初等特別活動指導法 ・初等教育方法・技術	・初等生徒・進路指導 ・教育相談 ・書道							
総合基礎科目	外国語科目 (12 単位必修)	・外国語 IR (中級) ・外国語 IC (中級) ・外国語 IIB (初級) ・外国語 IIC (初級)	・外国語 IR (上級) ・外国語 IC (上級)							
	スポーツ・健康科学科目 (2 単位必修)	・スポーツ・健康科学 I								
	基礎教養科目・情報科目 (12 単位必修)	・「日本国憲法」「初等情報処理 I」は免許必修								

[備考] 表に示した配当年次は、当該科目の最低可能履修年次である。
●は学科必修科目、[数字]は単位数 (記載がないものは2単位)

選択必修科目：36 単位

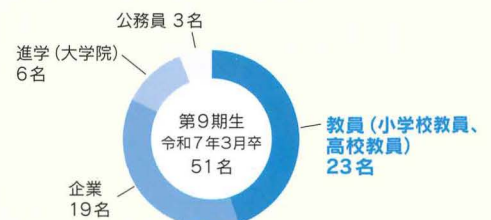
このうち 8 単位必修 ※隔年開講もあり
このうち 4 単位必修 ※隔年開講もあり
このうち 4 単位必修 ※隔年開講もあり
このうち 20 単位必修

選択必修科目の各カテゴリーの最低基準を超えて修得した単位数は、まず選択科目 14 単位として、次いで自由科目 20 単位の単位数として算入する
卒業に必要な単位数は 134 単位となる

学びを創り出すプロを育てます

教育学科は小学校教員養成を主たる目的として 2013 年 4 月に開設されました。その 1 期生は 2017 年 3 月に希望者のほぼ全員 (90% 超) が小学校教員となって巣立っていきました。私たちが描いた「21 世紀の社会を見据えた本物志向の教員養成」が実現されつつあることが証明されたのです。教育学科では狭い意味の Teacher ではなく「学びの総合プロデューサー」を育成しています。教えるプロではなく学びを創り出すプロを育てるということです。そのため体験型や協議・発信型の授業を多数用意しています。また学科行事や課外企画も活発に実施されています。教育学科に入学して、大切な価値を次世代につなぐ人になりませんか。

卒業生の進路





教員紹介

子どもと社会の幸福実現を創る教育学

子どもたちの未来は、子どもたちを取り巻く環境によって大きく影響を受けます。人生初期の経験を豊かにすることに、保育者や教師、学校のイノベーションは不可欠です。その営みの具体的姿をお伝えし、皆さんと共に考え、語り合い学びを深めていきたいと願っています。



秋田 喜代美 教授
[担当]初等教育学、授業研究 他

楽しい学校、居心地のよい学級づくり

子どもたちの心は、学校で何を感じ、どのように成長するのでしょう。学校内での情緒的相互作用や、学校環境が子どもの心に与える影響について、学校臨床心理学の視点から一緒に考えていければと思います。仲間と新しい気づきを得る体験を重ねてみましょう。



伊藤 亜矢子 教授
[担当]特別支援教育論、学校カウンセリング論 他

「センス・オブ・ワンダー」を大切に!

「美しいもの・未知なものなどに目を見る感性=センス・オブ・ワンダー」を持ち続けることは大切です。教育学科で自然や人との出会いを通してセンス・オブ・ワンダーを育み、よろこび・感激・神秘などを再発見し、友と感動を分かち合しましょう。



飯沼 慶一 教授
[担当]環境教育論、理科概説 他

大学時代は自分の殻を破り可能性を広げるとき

専門分野は国語教育で、学内では、教職合宿・教職ゼミ・国語教育懇話会(研究会)等を担当しています。大学時代は大きく成長する時期です。仲間と語り合う時間と一人で考える時間の両方を大切に充実した学生生活を過ごしてください。



岩崎 淳 教授
[担当]国語科概説、初等国語科教育法 他

複雑な現代社会を読み解く豊かな地理的想像力を育てる

地理教育を中心に社会科・生活科教育の理論的・実践的な研究に取り組んでいます。教室から日本・世界まで様々なスケールの空間を形成する主体として、これからの社会を担う子どもたちにどのような資質や能力を育むべきか。皆さんと共に学び、共に考えていきたいと思います。



大矢 幸久 准教授
[担当]社会科概説、初等生活科教育法 他

次世代教員の資質と能力を育む

算数・数学教育を主としつつ、情報系科目も担当しています。算数・数学は紀元前から紡がれた人間の知性であり、ICTによるイノベーションは現在の教育文化を改変する思想と技術です。不易と流行を弁えたエバンジェリストとして皆で成長しましょう。



小原 豊 教授
[担当]算数科概説、初等ICT活用の理論と実践 他

スクールコンプライアンスについての研究

およそ全ての教育活動は、根拠法規が存在してこそ現実のものになっています。したがって、教員には「法に基づく」教育実践が求められます。この点を踏まえて、学校における教育実践の在り方について共に考えていきたいと思っています。友人や教員と語り合い、学生である時間を有意義に過ごしてください。



黒川 雅子 教授
[担当]教職概論、初等生徒・進路指導 他

次世代の社会と人々の幸せづくりのための学校・授業を創る教育学

日々のどんな授業を創るのかは、どんな学校を創るのか、個々の子どもの日々の幸せをどうつくり、未来の幸せの基盤をどう育むのかを直接の課題とし、ひいては、どんな社会を創っていくのかにつながっていきます。授業では、気軽な雰囲気でもたくさん話し合いながら、何がよりよい授業、よりよい学校づくりにつながっていくのかを一緒に考えていきたいと思います。



小国 喜弘 教授
[担当]基礎演習、初等道徳教育指導法 他

音と身体から拓かれる学び

専門分野は、音楽教育です。人々は学校音楽をどう経験し、意味づけるのかを研究しています。音楽とは何か、教育とは何か、これまで「当たり前」に思ってきたことを皆さんとともに問い直し、語り合い、音と身体から拓かれる学びを深めていければと思っています。



笹野 恵理子 教授
[担当]音楽科概説、初等音楽科教育法 他

「ひたむき、一途は人の魅力の源泉」

テニスを中心とした身体活動に関する運動生理学、スポーツ戦術の一般化理論、健康のための運動及び生活介入の実践的研究、ボランティア教育の実践、野外(冒険)教育と情操、明治以降の身体教育の歴史などを研究しています。授業では、体育概論、初等体育科教育法、スポーツ科学演習、自然体験実習などを担当しています。



佐藤 陽治 教授
[担当]体育科概説、初等体育科教育法 他

もの見方や考え方を更新する学びを!

近現代日本教育史を専攻し、教育や教師がいかに人々のなかに存在してきたか、を問い続けています。それは、史実から先人たちの思いや願いを読み取り、その一方では自らの「先入観」「思考停止」に気づき、視野や思考がより多面的になっていく体験とも言えます。皆さんとも、そんな学びをしていきたいと思います。



須田 将司 教授
[担当]初等教育課程論、教育の歴史と現代教師論 他

お問い合わせ

学習院大学 教育学科事務室

〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1 TEL.03-5992-1267 E-mail:edu-off@gakushuin.ac.jp

教育学科の詳細についてはこちらをご覧ください。 <http://www.gakushuin.ac.jp/univ/let/edu/>